

北海道新聞

2024年
12月 5日
木曜日

発行所
北海道新聞社
〒060-8711
札幌市中央区大通東4-1
電話 011-221-2111
www.hokkaido-np.co.jp

北海道二期会創立60周年記念公演 喜歌劇「こうもり」

日本語のせりふ 現代的な演出に笑い

音楽会

軽やかなウィンナーワルツが全編を彩るヨハン・シュトラウス2世の喜歌劇「こうもり」。世界的に愛されているこの傑作を、北海道二期会は2005年と12年に訳詞上演したが、創立60周年記念公演の今回はドイツ語歌唱(字幕付き)。しかし、せりふは日本語にしたため、物語の展開



華麗なバレエが舞台に彩りを添えた北海道二期会創立60周年記念の喜歌劇「こうもり」(植村佳弘撮影)

がわかりやすく、最近の話題を取り入れた会話が随所で笑いを誘う。中村敬一の演出は、現代的な喜劇の風味満載だ。そんな喜劇性が追い風になり、筋書きの上では脇役の高橋茉莉(アデーレ)が、主役級の亀谷泰子(ロザリンド)に劣らず大活躍。第1幕冒頭からソプラノ2人の歌声が映え、岡崎正治(アルフレード)の巧みな歌唱とともに場面を盛り上げた。

そして、盛りだくさんの第2幕。舞踏会で公爵役の三津橋萌子(オルロフスキー)が存在感を示せば、ベテランの西島厚(アイゼンシュタイン)、内田智一(ファルケ)、中原聡章(フランク)、若い世代の新井田美香(イータ)が豊かな表現力を見せる。華やかな歌合戦と化し、「われら皆、兄弟姉妹」などの合唱も高潮。

第2幕の途中では、榎谷博子バレエスタジオのダンサーが優雅に舞踊。川瀬賢太郎指揮の札幌交響楽団がバレエの場面で演奏したボルカ「雷鳴と稲妻」は生き生きと鳴り響いた。HBC少年少女合唱団による「美しく青きドナウ」などの清冽な美しさも心に残る。

第3幕では長倉駿(ブリント)と小橋亜樹(フロッシュ)が個性的な役を見事に演じた。物語は大団円を迎え、「乾杯!乾杯!」と歌う「シャンパンの歌」で底抜けに楽しいフィナーレ。祝祭ムードは最高潮に達した。

プロシエクシオン・マッピングの使用という新しい試みもまじえつつ、軽快なテンポで歌と笑いにあふれた「こうもり」。北海道二期会が満を持しての公演からは、作品の舞台ウィーンらしい洒脱さも感じられた。

(三浦洋・北海道情報大教授)

◇11月23、24日、札幌市教育文化会館大ホール(24日を聴いて)。